

<b>〔科目名〕</b> <b>マクロ経済学</b>	<b>〔単位数〕</b> 4 単位	<b>〔科目区分〕</b> 専門科目 基礎科目
<b>〔担当者〕</b> 巽 一樹	<b>〔オフィス・アワー〕</b> 時間:授業終了後 場所:巽研究室	<b>〔授業の方法〕</b> 講義
<b>〔科目の概要〕</b> <p>「マクロ経済学」は一国の全体的な経済活動を対象として、国民所得、物価水準、失業率などについて研究する学問である。本科目では、最初に、国内総生産(GDP)の説明から始める。GDP はどのようなものによって構成されており、マクロ経済において、どのような意義を持っているのか説明する。次に、消費や投資の決定理論について説明する。続いて、GDP が決定する仕組みについて、マクロ経済モデルを使って説明する。最初はケインジアン・モデルの紹介から行い、IS—LM モデルと呼ばれる利率を考慮した分析へと発展させてゆく。</p> <p>後半の講義では、物価水準を扱った経済モデルを取り上げる。戦後日本の物価水準の推移を概観し、物価水準の変動にはどのような効果があるのか説明した上で、物価水準と失業率にはどのような関係があるのかについて検討する。</p> <p>講義の終盤では、経済成長の理論や対外経済取引を扱った経済理論について、学生の関心に応じて紹介する。特に、日本を含む先進諸国の経済停滞にはどのような要因があるのか、今後必要とされる経済政策について、検討を行う。</p>		
<b>〔授業科目群・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> <p>「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」の大きな違いは個別の経済現象を分析の対象とするか、一国全体の国民経済を分析対象とするかにある。「ミクロ経済学」は家計の効用最大化行動や企業の利潤最大化といった個別の経済主体の最適化行動やその相互依存関係を分析対象としている。一方で、「マクロ経済学」は国民経済全体の経済活動を分析対象としている。例えば、国内総生産、雇用問題、物価変動、経済成長などが分析の対象となる。また、マクロ経済モデルは「ミクロ経済学」と比較し、現実を重視しており、政策的な意味を追求する傾向にある。</p> <p>「マクロ経済学」は「ミクロ経済学」とともに最も基礎的な分野である。これらは応用経済学と呼ばれる「財政学」、「金融経済学」、「国際経済学」、「労働経済学」における分析の基礎付けとなっている。「マクロ経済学」の理解を通じて、基幹科目の修得に役立てられることが期待される。また、マクロ経済モデルを学べば、GDP や物価水準の決定する仕組みについて理解できるようになり、新聞記事やニュースを正しく読み取る力が身に付けられる。官公庁や金融機関に就職したいと考えている学生にとっても、政策効果を分析する手助けとなる。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>中間目標はマクロ経済モデルを用いて、経済政策の効果について説明できることである。まず、消費・投資の決定リトンについて理解することを目指す。その次に、マクロ経済モデルにおけるGDP、利率、物価水準などマクロ経済変数が決定する仕組みについて理解することを目指す。それらの理論をもとに、経済政策によって、それらのマクロ経済変数がどのように変化するか分析できるようになることを目指す。経済学で扱う数学は難しいと思われがちであるが、講義時における問題演習を繰り返すことによって、着実な理解ができることを目指す。将来、公務員試験を受ける学生にとっても必要な力となる。また、今後履修する基幹科目における理解の助けとなる。</p> <p>最終目標は今後の日本経済及び世界経済に対する望ましい経済政策について提案できることにある。そのために、練習問題やディスカッションの際に、政策立案のためのトレーニングを行う。具体的には、理論と現実データの整合性に関する確認、身近な社会問題に対するマクロ経済理論を使った分析を行う。これらを繰り返すことによって、マクロ経済モデルに対する理解が深まるとともに、各自の希望進路に応じた実力を身に付けることができる。公務員を志望する学生にとっては政策効果の分析や政策立案力を高められるようになる。民間企業を志望する学生にとっても、経済動向を適切に把握する助けとなる。</p>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b>		

<p><b>〔教科書〕</b>  福田慎一,照山博司 (2016). 『マクロ経済学・入門 第5版』.有斐閣</p>													
<p><b>〔指定図書〕</b>  中谷巖,下井直毅,塚田裕昭 (2021). 『入門 マクロ経済学 [第6版]』.日本評論社</p>													
<p><b>〔参考書〕</b>  N・グレゴリー・マンキュー(著), 足立英之,地主敏樹,中谷武,柳川隆(訳) (2017). 『マンキュー マクロ経済学 I 入門篇(第4版)』.東洋経済新報社  N・グレゴリー・マンキュー(著), 足立英之,地主敏樹,中谷武,柳川隆(訳) (2017). 『マンキュー マクロ経済学 II 応用篇(第4版)』.東洋経済新報社  齊藤誠,岩本康志,太田聰一,柴田章久 (2016). 『マクロ経済学 新版』.有斐閣  二神孝一(2017). 『マクロ経済学入門 [第3版]』日本評論社</p>													
<p><b>〔前提科目〕</b>  特になし</p>													
<p><b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b>  期末試験 100%で評価する。期末試験の持ち込み資料は不可とする。</p>													
<p><b>〔評価の基準及びスケール〕</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>得点比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>80%~100%</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>70%~80%未満</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>60%~70%未満</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>50%~60%未満</td> </tr> <tr> <td>F</td> <td>50%未満</td> </tr> </tbody> </table>		評価	得点比率	A	80%~100%	B	70%~80%未満	C	60%~70%未満	D	50%~60%未満	F	50%未満
評価	得点比率												
A	80%~100%												
B	70%~80%未満												
C	60%~70%未満												
D	50%~60%未満												
F	50%未満												
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b>  講義中は問題演習及びディスカッションの時間を多く取る予定である。問題演習を通じて、着実な理解を目指していただきたい。疑問点については、講師への質問を積極的に行い、その都度解決していただきたい。また、ディスカッションでは、現実の経済データからどのようなことが起きているのか、どのような経済政策が望まれるのか、積極的に議論をしていただきたいと考えている。</p>													
<p><b>〔実務経歴〕</b>  該当なし。</p>													
<p>授業スケジュール</p>													
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):授業の進め方、成績評価の方法について  内 容:授業の進め方、成績評価の方法、教科書の使い方について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書はしがき</p>												
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):GDP(国内総生産)、三面等価の原則  内 容:国民経済計算、三面等価の原則を通じて、GDP の概念について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第1章</p>												
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):「国内」の概念と「国民」の概念、名目値と実質賃金  内 容:GDP デフレーター、消費者物価指数など物価水準の指標について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第1章</p>												
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):ケインズ型の消費関数  内 容:可処分所得と消費の関係について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第2章</p>												
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):ライフサイクル仮説、恒常所得仮説、流動性制約と消費  内 容:異時点間にわたる個人の消費と貯蓄の決定に関する理論「ライフサイクル仮説」及び「恒常所得仮説」について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第2章</p>												

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):日本の貯蓄率と国際比較、「家計調査」でみた貯蓄率 内 容:日本の貯蓄率低下の要因について議論する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第2章</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):企業の設備投資、投資の決定要因 内 容:企業の設備投資と利子率の関係について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第3章</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):資本の限界生産性、資本の使用者費用 内 容:企業の投資増加による収入と費用について説明し、望ましい資本ストックの決定について検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第3章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):投資理論、調整費用モデル、在庫投資 内 容:新古典派の投資理論、投資の調整速度、調整費用について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第3章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):企業の資金調達、家計の資産選択、株価の決定理論 内 容:企業の資金調達、家計の資産選択について説明し、株価の決定理論について検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第4章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):トービンの <math>q</math> 理論、投資理論の実証分析、流動性制約と投資 内 容:トービンの <math>q</math> 理論について説明し、現実における投資の動きについて検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第4章</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):貨幣の機能、貨幣の概念、貨幣需要の動機、貨幣需要関数 内 容:貨幣の定義、貨幣の機能、マネーストック統計について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第5章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):ハイパワードマネーと貨幣の供給、貨幣量のコントロール方法 内 容:ハイパワードマネー、貨幣の信用創造プロセスについて説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第5章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):利子率の決定理論、テーラー・ルール 内 容:貨幣市場の需要と供給の均衡について説明し、利子率の決定について示す。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第5章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):ケインズ経済学の登場、有効需要の原理、乗数理論 内 容:ケインジアン・モデルを用いて、GDP の決定について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第6章</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか):財市場と IS 曲線、貨幣市場と LM 曲線 内 容:財市場の需給均衡を満たす GDP と利子率の組み合わせを表す IS 曲線、貨幣市場の需給均衡を満たす GDP と利子率の組み合わせを表す LM 曲線について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第6章</p>
第17回	<p>テーマ(何を学ぶか):IS—LM 分析、IS—LM 分析と財政・金融政策 内 容:IS 曲線、LM 曲線を用いて、財政政策及び金融政策の効果について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第6章</p>
第18回	<p>テーマ(何を学ぶか):景気循環と経済政策、トレンドの変動、IS—LM 分析における経済政策の有効性 内 容:マクロ経済において、経済政策がなぜ必要か説明し、財政政策と金融政策の有効性について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第7章</p>

第19回	<p>テーマ(何を学ぶか):マクロ計量モデルの役割、マネタリズムの批判、非伝統的金融政策          内 容:近年の日本経済における金融政策について検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第7章</p>
第20回	<p>テーマ(何を学ぶか):財政政策の再考、国債の役割と問題点、日本の財政赤字          内 容:政府支出の拡大がもたらすコストと日本の財政赤字について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第8章</p>
第21回	<p>テーマ(何を学ぶか):国債の中立命題、課税平準化の理論、日本の国債市場の動向          内 容:国際の中立命題について説明し、国債の現実にもたらす影響について検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第8章</p>
第22回	<p>テーマ(何を学ぶか):戦後日本の一般物価水準の推移、インフレーション          内 容:戦後日本の一般物価水準についてその推移を確認し、物価が上昇し続けること(インフレーション)について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第9章</p>
第23回	<p>テーマ(何を学ぶか):インフレのコスト、ハイパー・インフレーション、デフレーション          内 容:インフレがもたらすコスト、物価が低下し続けること(デフレーション)について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第9章</p>
第24回	<p>テーマ(何を学ぶか):労働市場と失業、フィリップス曲線、自然失業率          内 容:失業率と物価変動の関係について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第10章</p>
第25回	<p>テーマ(何を学ぶか):1990年代半ば以降の日本の失業率          内 容:近年の日本の失業率の上昇について説明し、その要因について議論する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第10章</p>
第26回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済の成長、経済成長の源泉、経済成長理論          内 容:新古典派成長理論を用いて、経済成長率がどのようにして決定するのか説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第11章</p>
第27回	<p>テーマ(何を学ぶか):成長会計、収束の概念          内 容:ソローの成長会計について説明し、経済成長の決定要因について議論する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第11章</p>
第28回	<p>テーマ(何を学ぶか):内生的経済成長理論、経済成長と所得分配          内 容:経済成長の要因の国際比較を通じて、経済成長に関する国家間の格差について議論する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第11章</p>
第29回	<p>テーマ(何を学ぶか):国際収支表、為替レート、国際通貨制度の推移          内 容:国際収支表の概念について説明し、為替相場制度の歴史的な推移と2つの制度の違いについて検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第12章</p>
第30回	<p>テーマ(何を学ぶか):為替レートの決定要因、経常収支の決定要因          内 容:対外経済取引を含めたマクロ経済学の理論について説明する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書第12章</p>
試験	筆記試験の実施